

羅業日教 四日(昭和二年四月十四日……十七日)  
結 果 七分五厘(値上義認妥協)

以上は同盟の進捗に於ける主要なるものであるが、工場單位等の小手議は各組合共絶えず  
向うを継続して居る。

三。政治部

此の一年間には我が國無産階級の政治戦線には幾多の特殊な事象を呈し、重大なる変遷を見た  
が、尤も本同盟政治部は十月労働農民党分裂以後は少しく消極的方針を執り、  
餘りに重大なる進取的活動を試みることをしなく、寧ろ各地方聯合會の活躍に任せて  
俟現至らんとした。大體の経過を摘記すれば次の如し。

十月二十五日 労働農民党分裂不承。

十一月二日 同盟中央執行委員會は労働農民党脱退を決議し、今後の政変  
参加は各地方の自由問題とす。

十一月二十日 社会民衆党組織協議會開から

傍聴し、互らに参加せし。労働組合總聯合會、東京市電自治會、  
同所同盟等と共同動作を申合せ中堅同盟を發企す。

十二月一日 労働農民党の組織協議會を同盟本部に開く。本同盟を始り、若くは  
向上會、中部日本農民組合等、代表者及一般有志五十余名出席  
組織の大綱決す。

十二月五日 社会民衆党結党式、参加せし。

十二月九日 日本労働党結党式、傍聴す。

一月二日 労働農民党創立準備委員會、同盟本部に開く。

一月十五日 労働農民党結党式